

日本大学生物資源科学部放射線利用施設

研究業績

平成 29 年度

糸長浩司、人と地域の再生哲学－放射能公害地域と向き合った 7 年、建築とまちづくり、2018 年 1 月

糸長浩司、東京五輪まで三年 飯館に「ハレ」は遠い、河北新報、河北新報社、2017 年 7 月 25 日掲載

糸長浩司、連載＝震災復興の転換点②FUKUSHIMA の未来を考える、建築雑誌、vol.132 No.1702、2017.09

Koji Itonaga、Actual condition of radioactive contamination in rural areas due to Fukushima nuclear power plant accident and decontamination limit、Through support research at Iitate village in Fukushima、農村計画学会誌、36-4、2018 年 3 月

Ueda K., Beppu T. Antibiotics in microbial coculture. J Antibiot. 70:361-365, 2017.

糸長浩司・斉藤丈士・浦上健司・關正貴、東京電力原発破局地での放射能汚染実態と放射線遮蔽策の実証実験-福島県飯館村での硫酸バリウム遮蔽と水壁遮蔽実験-、2017 年度日本建築学会大会（広島）学術講演梗、2017 年 9 月

浦上健司・糸長浩司、東京電力福島原発破局地における避難指示解除後の被災者の対応意識と課題～飯館村を対象として～、2017 年度日本建築学会大会（広島）学術講演梗、2017 年 9 月

Koji Itonaga、Actual condition of radioactive contamination in rural areas due to Fukushima nuclear power plant accident and decontamination limit-Through support research at Iitate village in Fukushima、日韓農村計画学会学術交流会、2017 年 11 月、熊本

糸長浩司、除染の効果と限界、村で暮らすことの課題－「例外状態」に暮らす理不尽－、IISORA 第 9 回シンポジウム 2018 福島「原発事故から 7 年、不条理と闘い生きる思いを語る」、飯館村放射能エコロジー研究会、2018 年 2 月、福島

森村浩司, 浦井 (相澤) 朋子, 上田賢志, 砂入道夫. コケによるセシウムの吸収. 環境放射能除染学会第6回研究発表会. 福島. 2017年7月